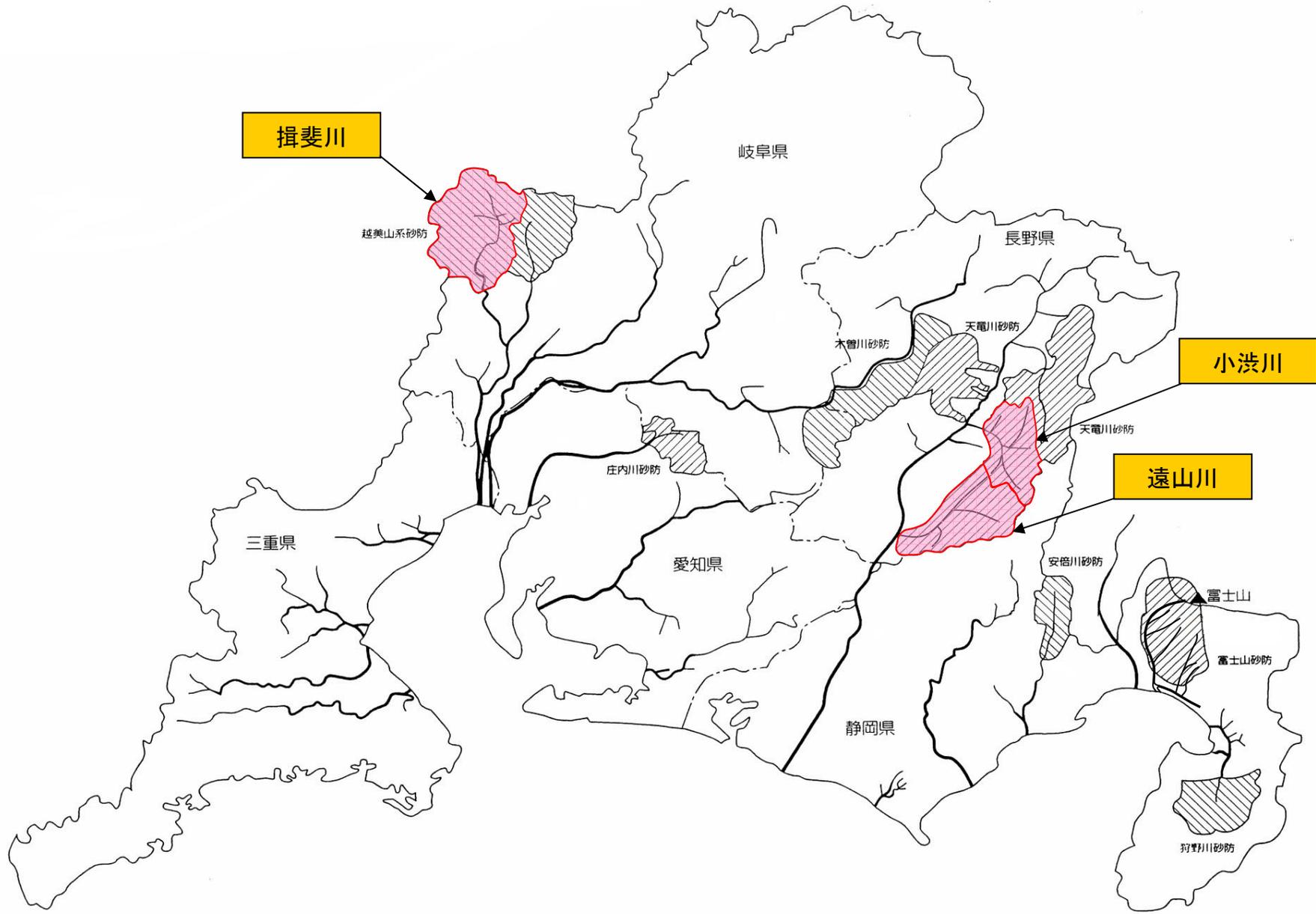


# 再評価対象 砂防事業概要

平成19年9月25日  
河川部

# 砂防事業再評価対象水系位置図



## 再評価対象水系一覧表（砂防事業）

水系名	事業進捗状況	社会経済情勢	費用対効果 B/C	再評価理由	対応方針
小  洪  川	<p>小洪川砂防流域では、生産・流出する土砂に対して、砂防えん堤等による土砂の抑制・調節対策を実施している。</p> <p>これまでに、砂防えん堤60基、床固工20基、護岸工6箇所等が完成しており、現在、大河原床固工群、寺社沢砂防えん堤等の整備を継続している。</p>	<p>小洪川砂防流域には、大鹿村や中川村四徳地区が位置し、河川沿いには、国道152号などの交通施設、大鹿村の公共施設等が整備されている。また、流域内には小洪川ダムが位置している。観光施設としては大西公園や中央構造線博物館等が位置するほか、大鹿歌舞伎（国選択重要無形民俗文化財）等の伝統芸能もあり、自然豊かな南アルプスとともに重要な観光資源となっている。下流には、伊那谷の中核都市である飯田市が位置している。</p> <p>流域市町村では、「天竜川上流直轄砂防事業促進期成同盟会」が組織され、直轄砂防事業による土砂災害対策の要望が提出されている。</p>	<p>全体事業 1.2 残事業 1.2</p>	再評価実施後5年経過した事業	継 続
遠  山  川	<p>遠山川砂防流域では、生産・流出する土砂に対して、砂防えん堤等による土砂の抑制・調節対策を実施している。</p> <p>これまでに、砂防えん堤18基、溪流保全工1箇所、護岸1箇所等が完成しており、現在、伊ノ木沢砂防えん堤、梶谷第4砂防えん堤等の整備を継続している。</p>	<p>遠山川砂防流域には、飯田市上村、南信濃地区が位置し、国道152号や国道418号、JR飯田線などの交通施設が整備されている。観光施設としては遠山郷土館「和田城」や温泉施設「かぐらの湯」などの観光施設、遠山の霜月祭り（国指定重要無形民俗文化財）等の伝統的な行事があり、自然豊かな南アルプスとともに、重要な観光資源となっている。</p> <p>流域市町村では、「天竜川上流直轄砂防事業促進期成同盟会」が組織され、直轄砂防事業による土砂災害対策の要望が提出されている。</p>	<p>全体事業 2.0 残事業 1.6</p>	再評価実施後5年経過した事業	継 続
揖  斐  川	<p>揖斐川砂防流域では、生産・流出する土砂に対して、砂防えん堤、床固工群等による土砂の抑制・調節対策を実施している。</p> <p>これまでに、砂防えん堤81基、床固工群5箇所、溪流保全工4箇所等が完成しており、現在、貝月谷第1砂防えん堤、西津汲谷第1砂防えん堤等の整備を継続している。</p>	<p>揖斐川砂防流域には、揖斐川町久瀬、藤橋、坂内地区が位置し、国道303号や国道417号などの交通施設が整備されている。また、流域内には横山ダム、徳山ダム（建設中）が位置し、藤橋歴史民俗資料館、藤橋城等の観光施設の他、高橋家住宅（県指定文化財）、白山長昌寺、夜叉龍神社、猪鹿垣等の名勝・史跡が点在している。三倉の太鼓踊りをはじめ東津汲鎌倉踊等の伝統的な行事があり、自然や地域の特色を生かした公園やキャンプ場などと共に地域の観光資源となっている。下流には県内有数の産業都市である大垣市等が位置している。</p> <p>流域市町村では、「越美山系砂防事業推進協議会」が組織され、直轄砂防事業による土砂災害対策の要望が提出されている。</p>	<p>全体事業 1.5 残事業 1.3</p>	事業採択後10年経過して継続中の事業	継 続

平成19年度 継続箇所 砂防事業の評価書（原案）

事業名	小渋川（砂防事業）		
水系名・河川名	天竜川水系小渋川	事業主体	天竜川上流河川事務所
所在地	長野県下伊那郡大鹿村、上伊那郡中川村		
事業着手年度	昭和12年度		
再評価実施理由	再評価実施後5年経過した事業		
実施内容	砂防えん堤、床固工、護岸工等		
全体事業費	約1,457億円		
事業の目的	<p>小渋川砂防流域は、中央構造線が位置し、南アルプスの険しい地形と脆弱な地質のため、荒川大崩壊地をはじめとする多くの崩壊地や地すべり地が存在している。渓床には崩れた不安定土砂が厚く堆積しており、洪水時に大量の土砂が流出する危険性を有している。昭和9年室戸台風等、全国的な水害において砂防事業の効果が認識され、これを契機に昭和12年に、土砂災害から流域内の人家・資産を保全するため直轄砂防事業を実施している。昭和44年には小渋ダムが完成し、小渋ダムの治水機能維持についても目的としている。</p>		
再評価概要	<p>1. 事業の必要性  (1) 事業をめぐる社会経済情勢等の変化  小渋川砂防流域には、大鹿村や中川村四徳地区が位置し、河川沿いには、国道152号などの交通施設、大鹿村の公共施設等が整備されている。また、流域内には小渋川ダムが位置している。観光施設としては大西公園や中央構造線博物館等が位置するほか、大鹿歌舞伎（国選択重要無形民俗文化財）等の伝統芸能もあり、自然豊かな南アルプスとともに重要な観光資源となっている。下流には、伊那谷の中核都市である飯田市が位置している。  これらから流域の土砂災害防止を目的とした本事業の必要性について変化はない。</p> <p>(2) 事業の投資効果  <math>B/C</math>（全体事業） = 土砂流出及び土石流による被害軽減額 / 計画全体事業費  = 1,903億円 / 1,599億円 = 1.2  <math>B/C</math>（残事業） = 土砂流出及び土石流による被害軽減額 / 計画残事業費  = 250億円 / 213億円 = 1.2</p> <p>(3) 事業の進捗状況  整備対象土砂量換算で約23%である。</p> <p>2. 事業の進捗の見込み  これまでに、砂防えん堤60基、床固工20基、護岸工6箇所等が完成しており、現在、大河原床固工群、寺社沢砂防えん堤等の整備を継続している。ほぼ順調に整備が進んでおり、大きな支障となる事項はない。今後も自然環境等に配慮しつつ計画的に事業の進捗を図る見込みである。</p> <p>3. コスト縮減や代替案立案等の可能性  現地発生材の有効活用等により、コスト縮減に努める。</p> <p>対応方針  本事業は継続する。</p>		

平成19年度 継続箇所 砂防事業の評価書（原案）

事業名	遠山川（砂防事業）		
水系名・河川名	天竜川水系遠山川	事業主体	天竜川上流河川事務所
所在地	長野県飯田市、下伊那郡天龍村		
事業着手年度	昭和52年度		
再評価実施理由	再評価実施後5年経過した事業		
実施内容	砂防えん堤、流路工、護岸工等		
全体事業費	約1,815億円		
事業の目的	<p>遠山川砂防流域は、中央構造線が位置し、南アルプスの険しい地形と脆弱な地質のため、サブ雑大崩壊地をはじめとする多くの崩壊地や地すべり地が存在している。渓床には崩れた不安定土砂が厚く堆積しており、洪水時に大量の土砂が流出する危険性を有している。昭和36の伊那谷災害、昭和40年台風等重なる災害も発生しているためこれらを契機に、昭和52年より土砂災害から流域内の人家・資産を保全するため直轄砂防事業を実施している。</p>		
再評価概要	<p>1. 事業の必要性            (1) 事業をめぐる社会情勢等の変化            遠山川砂防流域には、飯田市上村、南信濃地区が位置し、国道152号や国道418号、JR飯田線などの交通施設が整備されている。観光施設としては遠山郷土館「和田城」や温泉施設「かぐらの湯」などの観光施設、遠山の霜月祭り（国指定重要無形民俗文化財）等の伝統的な行事があり、自然豊かな南アルプスとともに、重要な観光資源となっている。            これらから流域の土砂災害防止を目的とした本事業の必要性について変化はない。</p> <p>(2) 事業の投資効果  <math>B/C</math>（全体事業） = 土砂流出及び土石流による被害軽減額 / 計画全体事業費            = 1,610億円 / 811億円 = 2.0  <math>B/C</math>（残事業） = 土砂流出及び土石流による被害軽減額 / 計画残事業費            = 568億円 / 358億円 = 1.6</p> <p>(3) 事業の進捗状況            整備対象土砂量換算で約6%である。</p> <p>2. 事業の進捗の見込み            これまでに、砂防えん堤18基、溪流保全工1箇所、護岸1箇所等が完成しており、現在、伊ノ木沢砂防えん堤、梶谷第4砂防えん堤等の整備を継続している。ほぼ順調に整備が進んでおり、大きな支障となる事項はない。今後も自然環境等に配慮しつつ計画的に事業の進捗を図る見込みである。</p> <p>3. コスト縮減や代替案立案等の可能性            残存型枠等の新技術を活用することにより、工期短縮等を図り、コスト縮減に努める。</p> <p>対応方針            本事業は継続する。</p>		

平成19年度 継続箇所 砂防事業の評価書（原案）

事業名	揖斐川（砂防事業）		
水系名・河川名	木曾川水系揖斐川	事業主体	越美山系砂防事務所
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町		
事業着手年度	昭和43年度		
再評価実施理由	事業採択後10年経過して継続中の事業		
実施内容	砂防えん堤、床固工群、溪流保全工等		
全体事業費	約2,165億円		
事業の目的	<p>揖斐川上流域は、砂岩・泥岩・石灰岩・チャート等が互層となった複雑な地質構造を呈しており、明治24年濃尾地震時に活動した濃尾断層帯のほか、揖斐川、冠山断層など多くの活断層が位置し、脆弱な地質となっている。また、上部硬質、下部軟質層で構成される地質構造の場所が分布しているため、徳山白谷のような大崩壊が発生しやすい特性を持ち合わせている。昭和40年の奥越豪雨災害により流域は未曾有の災害に見舞われたため、この災害を契機に昭和43年より土砂災害から流域内の人家・資産を保全するため直轄砂防事業を実施している。また、横山ダムの治水機能維持についても目的としている。</p>		
再評価概要	<p>1. 事業の必要性            (1) 事業をめぐる社会情勢等の変化            揖斐川砂防流域には、揖斐川町久瀬、藤橋、坂内地区が位置し、国道303号や国道417号などの交通施設が整備されている。また、流域内には横山ダム、徳山ダム（建設中）が位置している。藤橋歴史民俗資料館、藤橋城等の観光施設の他、高橋家住宅（県指定文化財）、白山長昌寺、夜叉龍神社、猪鹿垣等の名勝・史跡が点在している。また、三倉の太鼓踊りをはじめ東津汲鎌倉踊等の伝統的な行事があり、自然や地域の特色を生かした公園やキャンプ場などと共に地域の観光資源となっており、観光客数は増加傾向にある。下流には県内有数の産業都市である大垣市等が位置しており人口・世帯数は増加傾向にある。            これらから流域の土砂災害防止を目的とした本事業の必要性について変化はない。</p> <p>(2) 事業の投資効果  <math>B/C</math>（全体事業） = 土砂流出及び土石流による被害軽減額 / 計画全体事業費            = 2,056億円 / 1,408億円 = 1.5  <math>B/C</math>（残事業） = 土砂流出及び土石流による被害軽減額 / 計画残事業費            = 514億円 / 405億円 = 1.3</p> <p>(3) 事業の進捗状況            整備対象土砂量換算で約12%である。</p> <p>2. 事業の進捗の見込み            これまでに、砂防えん堤81基、床固工群5箇所、溪流保全工4箇所等が完成しており、現在、貝月谷第1砂防えん堤、高地谷第1砂防えん堤等の整備を継続している。ほぼ順調に整備が進んでおり、大きな支障となる事項はない。今後も自然環境等に配慮しつつ計画的に事業の進捗を図る見込みである。</p> <p>3. コスト縮減や代替案立案等の可能性            砂防ソイルセメントの採用や残存型枠等の新技術を活用することにより、資源の有効利用、工期短縮等を図り、コスト縮減に努める。</p> <p>対応方針            本事業は継続する。</p>		